



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	<第6回研究会>エネルギーの地産地消に向けた小さなプロジェクト
Author(s)	岩井, 尚人
Citation	地域経済経営ネットワーク研究センター年報, 1, 110-111
Issue Date	2012-03-30
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/48846
Type	departmental bulletin paper
File Information	REBN_1_110.pdf



＜第6回研究会＞ エネルギーの地産地消を目指す さっぽろ薪プロジェクト

岩井 尚人

さっぽろ薪プロジェクト（Sapporo Maki Project 以下 SMaP）は、私が専務理事を務める一般社団法人プロジェクトデザインセンターが中心となって実施しているプロジェクトである。

SMaP は、札幌市内で発生する街路樹・公園樹の剪定木や間伐材を、さっぽろ市民の家庭の薪燃料として活用する仕組みづくりへのチャレンジである。剪定木利用は廃棄物削減、間伐材利用は森林資源の保全としての意義を持つ。

以下に SMaP の6つの特徴を解説する。

特徴 1. 札幌の木材を使う

輸送コストおよびライフサイクルアセスメントを考慮すると、極力輸送距離を短くすることが望ましい。また災害時には物流が停止することも想定し、市町村単位を基本としたコミュニティ内で薪が流通する仕組みを目指し、札幌市内の街路樹・公園樹の剪定木、および市内の山林で発生する除間伐材を市内で活用する。

特徴 2. 共同作業による薪づくり

2011 年度は、札幌市内の薪ストーブユーザー

各団体の役割

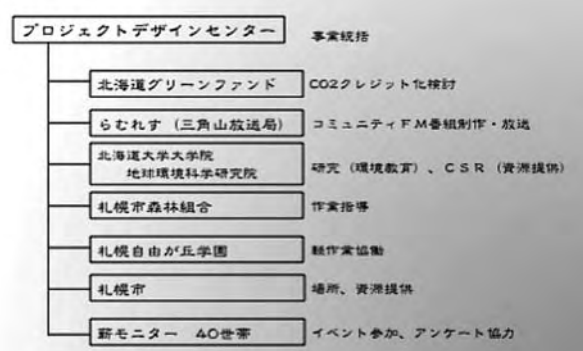


図 さっぽろ薪プロジェクトの役割分担



の中から応募のあった 80 世帯の中から 40 世帯を市民モニターとして選出しプロジェクトを実施した。市民モニターによる剪定木の薪割りイベントを実施し、性別・年齢差・体力差による割った薪の量に関係なく、参加世帯が均等に分配し持ち帰る相互扶助的運営をしている。

特徴 3. 会員制の組織運営

モニターアンケート実施の結果、薪ストーブユーザーは薪の入手方法、ストーブや道具のメンテナンス方法等の情報交換や相互交流の機会を求めていることがわかった。また、木質資源の利用には持続可能な範囲内での利用が必要であり、エネルギー供給サービスにはある程度の安定供給という責任が伴う。以上の理由から、会員数を限定した会員制による運営を行っている。

特徴 4. プロジェクト広報

エネルギー社会のあり方に一石を投じるのは SMaP の大きな目的であるため、積極的に社会に対して情報発信をしている。チャンネルとしては、札幌市西区を主な可聴エリアとする三角山放送局で本プロジェクトの広報番組「薪 Radio」

を放送している。薪やストーブを中心としたウッドライフについて、モニターを含む SMaP 関係者が交替で出演している。放送時間は毎週火曜日午前 10 時 30 分から 15 分間 76.2MHz にて。インターネット放送での視聴もできる。また、バイオマス利用先進地であるドイツの薪事情をテーマにした「薪 café」を、北大サステナビリティウィーク 2011 のイベントとして北海道大学遠友学舎で実施した。

特徴 5. ひきこもり、ニートの若者参加

薪は労働集約型のエネルギーであり薪割り・運搬・薪積み・小割りの焚き付け作りなど様々な作業が発生する。今回そのような作業を、ひきこもりやニートの若者達が通うフリースクール札幌自由が丘学園に依頼をし、有償ボランティアとして薪割り・薪の運搬などの作業協力をしてもらった。市民モニターからの作業補助に対する評価も上々であった。

特徴 6. 薪クレジットで環境価値の取引

薪を使用することによる CO2 削減量をクレジット化し、環境価値として販売することを NPO 法人北海道グリーンファンドとの協働で検討しているが、これについては最近の排出量取引市場低迷の影響から、現在見合わせている状況にある。

資源や環境上の制約、災害等のリスク対策を考えた時に、これからのエネルギー社会は、「デュアル・エネルギー・パス社会」であることが必要である。

つまり、電力や石油・ガスのように利用目的を特定せず不特定多数を対象に商品化され流通している「流通エネルギー」と、エネルギー源とエネルギー利用者が直接つながり、生活必需のエネルギーを自分のために利用する「自給エ

ネルギー」の 2 つのエネルギー入手経路を持つ社会である。(新妻 2011.6 pp.3-8)

さっぽろ薪プロジェクトは、その「自給エネルギー・パス」の一つをつくる取り組みである。

報告終了後のディスカッションでは、プロジェクト推進にあたってのハードルについて、今後薪ストーブユーザーが増加していった場合の大气污染防治や森林資源保全といった社会的影響について等活発な質問や意見交換が行われた。

今般、非常に有意義な研究報告の場を与えていただいたことに感謝の意を表します。



薪割りイベント 札幌市西区五天山公園



薪カフェ「ドイツ薪事情」北大遠友学舎

参考文献

新妻弘明 (2011.6) 「デュアル・エネルギー・パス」 (<http://niweb.kankyo.tohoku.ac.jp/PDF/dep.pdf>)